機関誌編集グループ
＜217 号の編集趣旨＞
≪特集１　プロジェクト(仮)≫
プロジェクト学習（Project Based Learning : PBL）とは課題を発見し解決する過程で知識やスキルの習得を目指す学習方法の１つです。現代においては総合的な学習(探究)の時間などでその方法が用いられることが多いようです。プロジェクト学習に取り組む生徒は主体的にその過程に取り組むことが求められます。 私たちは、これまでの経験から生徒が「主体」となることがいかに難しいかを知っています。生徒を「主体」にさせようとして結果的に「客体」としてしまうこともあり、生徒が「主体」となることの困難さに出会ってきました。それらの困難を乗り越える際に、おそらく必要となるのは生活指導の視点でしょう。

2017 年の静岡大会で里見実さんから聞いたことが記憶に残っています。「教育はプランではなく、プロジェクトなのだ。『プラン』には指導者の目指すゴールが既定されていて子どもをそこへ導こうとする。だが、『プロジェクト』には元々『(身を）投げ出す』という意味があり、指導者も子どもも共に探究しながら、たどり着く先はわからない、わくわくした冒険的要素を孕んでいる」という趣旨でした。

型が先行するプロジェクト学習に陥らずに生徒が「主体」となることを促すためには、教師としてどうかかわることができるでしょうか。4 つの実践から学びます。

≪特集２　生きることと学び（仮）≫
学校で、生徒たちはどんなことを学んでいるのでしょうか。各科目の授業や行事、LHR や日々の語らいの中など、様々な場面で生徒たちはそれぞれに何かを学び取っています。その学びは時として限られた教室・空間を飛び出し、思わぬ場所で芽吹くことがあります。
私たちは、理不尽な社会を自己責任として受け入れるのではなく、誰もがよりよく生きられる社会を目指して、今ある社会を変革しながら自分たちで考え生き抜いていくことを願っています。その願いを元に「18 歳を市民に」育てるための様々な取り組みを創りだすことに、日々心を砕いています。
実践者たちはどういう意図をもって授業や行事で学びの種を蒔き、どのような思いで生徒の声を聴いたのでしょう。そこでどのような対話がなされ、生徒たちはその対話の中から何を学び取ったのでしょう。生徒の心を動かし、生きていくちからとなる学びとは……興味深い３本の実践記録と、３本の当事者の声から学んでいきたいと思います。
＜概要＞
特集１　実践記録①②③④・実践分析論文・研究論文(各８ｐ)
特集２　実践記録①②③(各８ｐ)・当事者からの報告①②③(各４ｐ)・研究論文①②(各８ｐ)
連載　どうやっているの？ＨＲづくり」(3ｐ)／高校教育最新事情（4ｐ)／高校教育海外最新事情（2ｐ)
20 代若者の頁・若者座談会(4ｐ)／実践記録から生活指導を読み解く（4ｐ）
「マイノリティの権利からこれからの教育を展望する」（２ｐ）／「映画の中に世界を読む」（２ｐ）
「ほっとするとき」(2ｐ)／「ＢＯＯＫ　ＧＵＩＤＥ」(2ｐ)/編集後記(1ｐ)